

# 山王台だより 5月号



【学校教育目標】「自分のよさに気付き、相手の気持ちを大切にしながら、ともに高め合って生きる」

横浜市磯子区磯子5丁目2-1 TEL 045 (755) 1107

## 「バランス感覚」を磨く

校長 志田 一彦

さわやかな風が心地よく吹き抜ける季節となり、校庭の木々もすっかり若葉となりました。正門前のノースポールやパンジーも今が盛りと咲き誇っています。

1年生55名が入学して、全校児童341名でスタートした新学期ですが、あっという間に4月の終わりを迎えようとしています。

さて、いよいよゴールデンウィークへの突入です。この時期には年中行事のひとつである端午の節句があります。私が子どもの頃は家族で五月人形を飾り、柏餅やちまきを食べながら「子どもの日」を楽しみ、子ども心にも我が子の成長を願う親の思いを実感していました。

柏餅やちまきのような和菓子は木の葉で包まれています。食べ物や木の葉で包むのは昔の人の知恵によるもので、ひとつは葉の抗菌力を利用しています。もうひとつは香りへの楽しみで、餅にしみこんだ味と香りはおいしさを一層引き立ててくれます。子どもの日に、葉をむきながら食べた和菓子の葉の香りやあんこの甘みは、今でも心に残っています。

テレビの特集で見た和菓子職人の話によると、甘みの好みは時代と共に変化してきており、以前は強い甘みが好まれたのですが、今では淡い甘みが好まれ、昔に比べるとかなり甘さを抑えているそうです。ただ、抑えすぎてしまうと本来の味がなくなってしまうので、甘みのバランスの取り方が難しいという話をされていました。甘さの好みには個人差があるものの、誰もが満足できる甘さに整えることが職人の腕の見せ所ということでした。

和菓子職人が、誰もが満足できる味となるよう甘さのバランスを整えるように、教育の世界でも「バランス感覚」がとても大切だと感じています。学校での指導、家庭でのしつけという点で考えると、「優しさと厳しさ」「見守りと指導」「自由と規律」等々について、バランスの線をどこに引くのかということが、指導やしつけの「バランス感覚」ということになります。

これが偏ってくると、子どもたちのよさや可能性を摘んでしまったり、意欲や自主性をそいでしまったりすることにもなりかねません。子どものためと思ってやっていることが、むしろ逆に作用することもあり得ます。

子どもたち一人ひとりの幸せにつなげるために、私たち大人が指導、しつけをする上でも大切になる「バランス感覚」に一層の磨きをかけていきたいものです。

音楽朝会…ぜひ、ご来校ください。

5月28日（月）8時20分より 本校体育館

子どもたちの歌声を今年度もお聴きください。そして、ぜひ子どもたちと一緒に歌ってください。